

## 平成 29 年度 第 2 回岡崎市国際化推進委員会議事録

- 1 日時  
平成 30 年 2 月 14 日（水） 午後 2 時 30 分～午後 4 時
- 2 場所  
市役所西庁舎 101 会議室
- 3 出席委員（敬称略）  
委員長 安藤 充  
副委員長 川崎 直子  
委員 小久井 正秋、井上 登久、濱田 順子、伊東 浄江、木佐貫 昭二、  
平岩 義邦、鈴木 純子
- 4 欠席委員  
山田 珠樹
- 5 傍聴人  
1 人
- 6 事務局  
社会文化部長 安藤 英彦  
国際課 課長 太田 義男、副課長 五十嵐 千草、主任主査 竹谷 昌祐、  
主事 安藤 美咲
- 7 議題  
岡崎市の多文化共生の現状と外国人の防災について
- 8 議事要旨  
司会の国際課長が開会を宣言。今回任期が改まり最初の会議であったため、全委員、事務局の自己紹介を行った。その後、社会文化部長の挨拶に続き、委員長、副委員長の選任を行い、互選により委員長に安藤委員、副委員長に川崎委員が選出された。本委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。議長を務める安藤委員長により議題の審議が進められた。

議題 岡崎市の多文化共生の現状と外国人の防災について

事務局 : 岡崎市の多文化共生の現状と外国人の防災について説明。

委員長 : 委員のみなさんから御意見・御質問はありますか。

<外国人市民数の推移、国際交流、意見聞き取り内容について>

E委員 : 国民年金制度について、日本で年金を支払っていた期間を自国でも認められ、自国でも年金を受け取ることができるというのは、どこの国でも受け取ることができるのですか。

事務局 : すべての国ではなく、社会保障協定を結んでいる国のみです。社会保障協定を結んでいる国の一覧は日本年金機構のホームページで確認することができます。

委員長 : 国際交流について、呼和浩特の中学生がホームステイをしたということですが、ホストファミリーの方は積極的に受け入れてくれましたか。

事務局 : 国際交流協会のホストファミリーボランティア登録者の中から、今回、呼和浩特中学生の受入をしていただける方を募集しましたが、みなさん積極的に受け入れてくださいました。

G委員 : 近年、ベトナム人やインドネシア人が増えており、在留資格でいうと技能実習の割合が増えています。今後の多文化共生を進めていくには、これまで割合の高かった永住者・定住者のための取り組みと技能実習など短期滞在者のための取り組みというように対応を二分化する必要があると思います。

C委員 : 2月3日に行われた第2回コミュニティ通訳員会議の出席人数を教えてください。

事務局 : コミュニティ通訳員の出席人数が8人で、総代・自治会長が8人です。

C委員 : コミュニティ通訳員会議で防犯カメラに関する意見への対応に、「市で補助金を交付することができるので、学区の総代から補助金申請をするように連絡した」とありましたが、これは何に基づいたものですか。

事務局 : 市の安全安心課の事業に基づいており、地域防犯カメラ設置事業費補助金の申請を受け付けています。

委員長 : 災害時通訳ボランティアについて、登録者数が50人で使用可能言語が13言語とありましたが、13言語というのは、この通訳ボランティアさんの中で、対応可能な言語ということですか。

事務局 : 1人で何言語も話せる方もいますが、災害時通訳ボランティアの中で、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、韓国語、タイ語、ベトナム語、イタリア語、タガログ語、スワヒリ語、マレー語、インドネシア語の13言語の対応が可能です。

A委員 : コミュニティ通訳員会議の意見で、外国人市民の組長が様々な仕事ができ

たとえましたが、ためらいもなく受け入れて仕事をしてくれたのですか。  
事務局 : 総代さんがかなり苦労されたそうですが、ブラジル人の組長のサポートもあり、仕事をする事ができたと聞いています。

<外国人の防災について>

G委員 : 大災害が起きて3日後に災害ボランティア支援センターが社会福祉協議会に設置されますが、災害多言語支援センターは災害ボランティア支援センターと相互に連絡をとることができるように連携はできていますか。

事務局 : 今年実施することができませんでしたが、昨年度もその前の年度も社会福祉協議会と外国人の対応のための訓練を行っています。

国際課の意見としては、災害多言語支援センターを市役所国際課の場所に設置することが最善だと思いますが、同じ階に防災課があり、災害時にはスペースの問題があり設置することができません。それでも災害時には市役所に国際課の職員を2名配置し、りぶら国際交流センターに設置される災害多言語支援センターと連携をする予定です。

D委員 : 多言語防災緊急メール「防災くん」について、登録者数は把握していますか。また、防災チェックガイドを窓口に来た方や出前講座に参加した方以外には配布していないのですか。

事務局 : 月末に登録者数を確認しています。1月31日現在、ポルトガル語登録者数が620人、英語登録者数が239人、やさしい日本語登録者数が150人です。外国人市民が比較的多くいらっしゃる窓口課に防災チェックガイドを配架しています。

D委員 : 多言語防災緊急メール「防災くん」の登録者数を増やすために定期的に行っていることはありますか。

事務局 : 多文化共生フェスティバルなどのイベントで紹介をしたり、外国人市民のコミュニティの拠点となっている教会で出前講座を行い、登録者数を増やしています。

委員長 : 多文化共生推進庁内検討会議意見票で、関係各課から出された災害時に通訳・翻訳支援以外で外国人と共助する方法のアイデアは、すでに実施しているのか、まだアイデアにとどめているのか教えてください。

事務局 : 実施しているものもありますが、まだ多くのものが実施できていません。

A委員 : 教会で出前講座を行っているという話がありましたが、「この教会にはこの国籍の人が多い」ということがあるのですか。

事務局 : 教会によって、何日のミサはブラジル人の回、フィリピン人の回というように外国語を話すことのできる神父さんや牧師さんが行うミサがあります。外国人向けのミサをいつ行うかの情報を事前にお聞きして出前講座を行っています。

委員長 : 岡崎市には教会はたくさんあるのですか。

事務局 : これまでに岡崎カトリック教会とジャパン・ゴスペル教会で出前講座を行

いました。3月には赤浜町にある教会で出前講座を行う予定です。

A委員 : 災害時に、イスラム教徒の方で、ハラルの食材でなければ口にすることができない方がいたときに、市として対応策は考えていますか。

事務局 : 東京オリンピックもあるので、イスラム教徒への対応についての話は出ていますが、国際課としての具体的な対応策はありません。

C委員 : 多文化共生推進庁内検討会議意見票に、「外国人を雇用する事業所や派遣会社を通して情報提供をする」とありましたが、そのための仕組みはありますか。

事務局 : そのための仕組みがまだないので、外国人雇用管理推進協議会を通してお願いしたいと思っています。

C委員 : 後日、どのような情報を発信するのか等教えてください。

事務局 : よろしく申し上げます。また、外国人をたくさん雇用している会社で出前講座を行いたいと思います。

E委員 : 災害発生時の外国人被災者の把握は困難だと思いますが、災害時通訳ボランティアなどを通して把握する制度をつくと良いと思います。

F委員 : 岡崎市における外国人の防災は県内他市と比較してかなり進んでいると思います。外国人の被災状況の把握は県としても困難です。県も同じことですが、何か対応をするときに、本来は一番の弱者に焦点を当てて考えるべきだと思います。また、岡崎市域はかなり広いので、隣接市との助け合いを防災の視点に入れると良いと思います。

事務局 : 地域防災計画の中で、外国人の安否確認の担当課が、国際課と市民課になっています。安否確認をする際、個人情報が必要な壁となっていますが、今考えているのは外国人の名前、住所、世帯などの情報を市職員それぞれがデータとして持っていて、大災害で外国人の被災状況を把握するために活用するという事です。また、総代さんたちに個人情報を省いた学区ごとの外国人市民数をお知らせし、災害時の安否確認を各学区で行っていただきたいと思っています。

H委員 : 宗教に入っていない外国人、日本人の職場にいて孤立している外国人は、災害時に情報を得るのが困難だと思います。

事務局 : まずは、私たち職員が外国人との繋がり、ネットワークを広げていきたいと思っています。また、国際交流協会の会員に外国人が何人かいらっしゃいますし、国際交流協会のホームページに生活に役立つ情報がいくつもあるので、ぜひ見ていただきたいです。

<まとめ>

委員長 : 事務局から岡崎市の多文化共生の現状と防災についての説明と委員のみなさんから意見をいただきました。前半では、岡崎市におけるベトナム人やインドネシア人の人数が増えていることから、外国人対応の二分化の必要性について、後半では、防災について、災害対策本部と災害多言語支援セ

ンターの連携の必要性、共助に関して進んでいることや今後検討していくべきことを指摘していただきました。今後、弱者に焦点を当てた防災という意識を対策を考えていただきたいと思います。

事務局 : 貴重なご意見ありがとうございました。これで平成 29 年度第 2 回国際化推進委員会を終了します。